

岩手県フットボールセンター事業
事業者選定コンペ RFP 審査結果について

平成 22 年 4 月 7 日
社団法人岩手県サッカー協会

平成 22 年 4 月 5 日 15 時から、紫波町役場第 2 庁舎会議室において、岩手県フットボールセンター事業者選定コンペ RFP の審査委員会が開催されましたので、審査結果を公表いたします。今後、優先交渉権者と事業契約に向けて交渉を始めさせていただきます。

【審査結果】

優先交渉権者	大成ロテック株式会社	92.54 点
次点	日本フィールドシステム株式会社	87.00 点
次点	長谷川体育施設株式会社グループ	82.55 点

社団法人岩手県サッカー協会は、今後、優先交渉権者の大成ロテック株式会社と事業契約に向けて交渉に入りますが、優先交渉権者の提案書に記載されている内容の実現が難しいと判断した場合は、日本フィールドシステム株式会社及び長谷川体育施設株式会社グループとの交渉に変更させていただきます。

【審査結果総評】

	長谷川体育施設(株)G	大成ロテック(株)	日本フィールドシステム(株)
RFQ 獲得点	2.0	5.0	2.0
価格提案 (40 点)	39.55	37.54	40.00
技術提案 (30 点)	15.0	23.0	21.0
付加価値 (15 点)	12.0	12.0	14.0
施工体制 (15 点)	14.0	15.0	10.0
合計	82.55	92.54	87.00

まず始めに、厳しい予算設定にも関わらず、全ての提案者に積極的な提案をして頂いたことに対しまして感謝を申し上げます。

最高点を獲得した大成ロテック株式会社の提案は、全体的にバランスの良い内容となっていました。特に評価できる点は、品質管理を鑑みた工程管理を提案してい

るところです。本事業の重要なポイントは、年度内に日本サッカー協会の検査をクリアすることであるということ十分に理解し、積雪や凍上が懸念される冬季間の施工を見送り、雪解けを待って、人工芝の敷設を計画している点が評価されました。メンテナンスについても RFQ 時の要件を理解した提案となっており、長期間に渡って岩手県サッカー協会と連携できる企業であると感じられました。

日本フィールドシステム株式会社の提案は、提案書全体の体裁が整えられて非常にわかりやすいものでした。板状暗渠の敷設計画は非常にわかりやすく、紫波町が考える雨水処理計画と整合性が図られていて評価できる内容でした。しかし、提案された工程計画は、他工事との連携に少々疑問が残る内容となっており、審査員に不安を与えてしまい、点数が伸び悩みました。また、一括下請負のように見える提案であることも、審査員にマイナスの印象を与えてしまいました。（紫波町の助成金も入る工事であることから一括下請負は認められません。電気設備工事について専門業者に発注を予定していないところにも不安が残りました。）

長谷川体育施設株式会社グループの提案は、数多くの実績がある企業らしく品質管理手法が非常に優れ、また維持管理計画についても一定の評価を得ました。しかし、その優れた品質管理を実現するために必要な工程管理の記載が全く無く、結果として、点数が伸びませんでした。

3者から提案された人工芝については、3種類とも事前に指定した製品であり、芝の種類による点数差はありませんでした。3者の点数に差が出たのは、工程管理の部分でした。

説明会でも申し上げたように、今回の事業の大きなポイントは、必ず平成23年3月末までに日本サッカー協会の検査をクリアし、4月にオープンさせるということです。それを実現するためには、他工事との連携を含めた工程の管理と、日本サッカー協会の検査に耐えうるグラウンドの品質を確保するための十分な検討が必要となります。この点に着目した場合、3者の提案の中では、大成ロテック株式会社のものが、一番実現性が高いという評価になりました。

しかし、3者とも日本サッカー協会の検査に対応するための提案がなされていなかったことが残念でした。（その項目については3者とも0点でした）

提案していただいた3者には、アイデア提案コンペからこれまで、長期間に渡り格段のご協力をいただき誠にありがとうございました。今後も社団法人岩手県サッカー協会の各種事業にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

【問合せ先】

オガール紫波株式会社
事業部 岡崎、佐々木
019-681-1316